



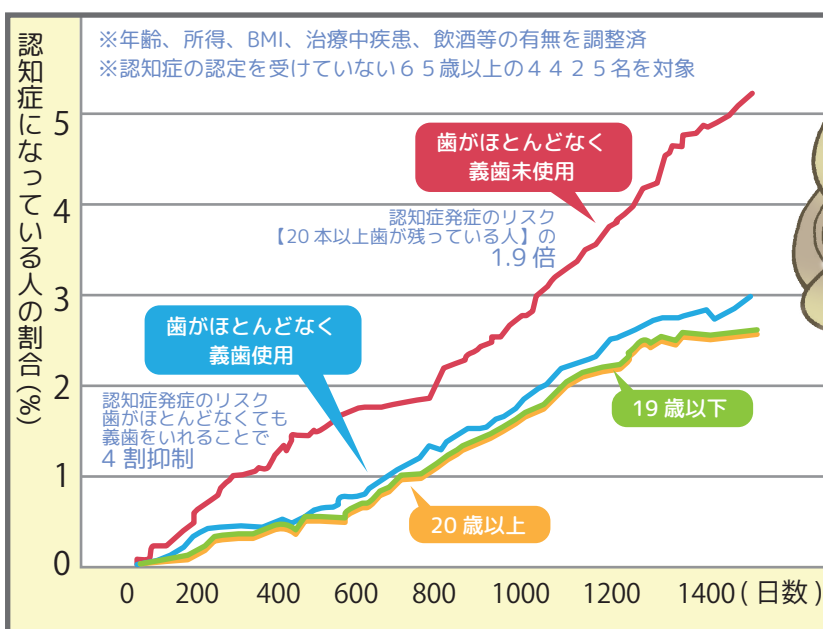
口腔ケアと認知症

高齢になると歯や口の機能が低下し、それがさまざまな病気を引き起こす要因になります。認知症もその一つ。

噛むことが脳の活性化につながることは知られていますが、歯の喪失はアルツハイマー型認知症のリスクを高めることも明らかになっています。

歯を失う主な原因は歯周病とう蝕です。中でも歯周病は糖尿病と密接な相互関係にあることに注目です。歯周病の人は糖尿病が重症化しやすく、逆に糖尿病の人は歯周病が重症化しやすくなります。認知症と糖尿病も同じような関係性にあることを考えると、歯周病で糖尿病が悪化することによって認知症も増悪するという悪循環に陥る可能性があるのです。

最近では国立長寿医療研究センター、名古屋市立大学などの研究グループによって、血液を介して脳内に入り込んだ歯周病原菌がアルツハイマー型認知症の原因の一つであるアミロイドβ蛋白を増やし、認知症を悪化させることがわかってきました。認知症においても歯周病予防や歯の喪失防止はとても重要なのです。



義歯をいれると
4割抑制

